**L023-010** **会場：C402** **時間：5 月 28 日　11:30-11:45**

# 古カトマンズ湖の学術ボーリングとその成果---第一報

# Academic core drilling of the Paleo-Kathmandu Lake and its research results---the first report

# 酒井　治孝[1]，桑原　義博[1]，藤井　理恵[2]，山中　寿朗[3]，酒井　英男[4]，中村　俊夫[5]，内田　昌男[6]

# Harutaka Sakai[1], Yoshihiro Kuwahara[2], Rie Fujii[3], Toshiro Yamanaka[4], Hideo Sakai[5], Toshio Nakamura[6], Masao Uchida[7]

[1] 九大・比文・環境変動，[2] 九大・比文・地球自然，[3] 九大院・比文，[4] 富山大・理・地球科学，[5] 名古屋大・年測セ，[6] 海洋科学技術センター

[1] Earth Sci., Kyushu Univ, [2] Dept. Envronmental Changes, Fac. Soc. Cult. Stud., Kyushu Univ., [3] Earth Sci., Kyushu Univ., [4] SCS, Kyushu Univ., [5] Earth Sci., Toyama Univ., [6] CCR, Nagoya Univ., [7] JAMSTEC

ヒマラヤ山脈の上昇とインドモンスーンの変遷史を解明する目的で，2000 年・ 2001 年秋にカトマンズ盆地中央部と南部で学術ボーリングを行った．その結果，総計 435mのコアを得，地表露頭調査と合わせて，カトマンズ盆地堆積物の層序を確立し,過去約 300 万年堆積環境変遷史(第 1～7 期)のアウトラインを得ることが出来た．

第１期：古カトマンズ湖の出現以前，古バグマティ河によって北から南へ堆積物は運搬され，ガンジス平原に排出（約 280 万年前以前）
第２期：古カトマンズ湖が出現したが，まだ水深は浅く，湿地～沼の状態（～約 250 万年前）
第３期：古カトマンズ湖は次第に拡大し，水深が深くなった(約 250 万年～100 万年前）
第４期：盆地の南側のマハバーラト山地の急激な上昇により，イベント堆積物が流入し，湖は一旦浅くなった（約 100 万年前）
第５期：マハバーラト山地の上昇と伴に，再び湖の水位は上昇し，湖面は拡大した．
第６期：湖は次第に埋め立てられ，富栄養湖の状態になった．
第７期：湖南縁の活断層の活動により湖水の排水が始まり，約１万年前に干上がった．

また，盆地中央部から得られたコアの最上部については，古地磁気学的研究と AMS14C 年代を求め，年ぢあの目盛りを入れることに努めた．また，コアから産出した植物の葉，花粉，珪藻などの化石の古生物学的検討を行うと同時に，粒度分布，粘土鉱物組成，有機炭素含有量，C/N 比などを検討したので，その概要を報告する．